

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0170501571		
法人名	株式会社 アムケア		
事業所名	グループホーム まどべ		
所在地	札幌市厚別区厚別中央1条3丁目4-16		
自己評価作成日	平成31年3月15日	評価結果市町村受理日	平成31年4月12日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action_kouhyou_detail.2018.022.kan=true&JigyosyoCd=0170501571-00&PrefCd=01&VersionCd=022
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F
訪問調査日	平成31年3月29日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

職員は理念を共有し、困難な場面では理念に立ち返り意見交換しながらケアに生かしている。四季を通じて毎日散歩やアクティビティを実施し、一日の生活の中にもメリハリをつけ心身機能の低下予防に努めている。趣味活動の生け花、茶道、陶芸、大正琴、キーボード、音楽療法などのほか、花見やサクランボ狩り、外食やショッピングなど日常の楽しみや文化や地域社会とのふれあいを継続している。
また、ボランティアさん、実習生や中学生の職業体験、町内会班長などを引き受け開放的で相談しやすい窓口にもなっている。ご家族には毎月写真付きで職員手書きのお便りを送り、訪問時や電話などでも近況をお伝えしている。職員のスキルやモチベーションアップを目指して勉強会に力を入れている。昨年は「まどべのハザードマップ」を作成し事故防止に取り組んだ。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

地下鉄駅から至近の住宅地にある2階建て1ユニットのグループホームである。周辺にはスーパーやコンビニエンスストア、区役所などがあり、利便性が高い。2階に7つの居室があり、1階に2居室と居間、キッチン、浴室などがある。共用空間は家庭的な家具や調度品、装飾があり、馴染みやすい雰囲気となっている。居室は9~10畳と広く、トイレや風呂、エレベーターなどが使いやすく造られている。利用者になるべく歩いてもらうよう取り組み、活動的な利用者が多く、賑やかで活気のある雰囲気である。地域交流の面では、事業所のみじ祭りや開設記念イベントに多数の地域の方の参加を得るほか、歌や手品、ヨガなど多様なボランティアが来て利用者や交流している。職員は理念をよく理解してサービス提供を行っており、社内勉強会や委員会にも参加し、知識を深めている。長く安定して勤務する職員が多いのも特長で、利用者の安心につながっている。ケアマネジメントの面では、3か月ごとに介護計画を更新する際に課題の抽出を適切に行い、利用者の現状に即した計画が作成されている。生活記録についても、勉強会を行いながら適切に作成している。外出支援の面では、冬でもなるべく外に散歩や外気浴に出るように心がけ、暖かい時期の外出行事も充実している。きめ細かな支援のもと、安心して生活できるグループホームである。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目№1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)		

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念は代表者、管理者、職員が話し合って作り、運営推進会議にて地域の方々の助言を頂き完成した。意味や根拠を理解し共有し実践している。	理念の中に「地域の一員としていきいき」という文言があり、地域密着型サービスの意義を踏まえた理念としている。理念を居間やスタッフルームに掲示して申し送り時などに確認し、職員が理解を深めて実践している。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会に加入しており毎年総会や懇親会に出席している。班長も担う。職員はゴミステーションや消火栓の清掃除雪を行う。回覧板を回し挨拶や声掛けなど日常的に交流している。	事業所のもみじ祭りや開設記念イベントに多数の地域の方の参加を得ている。歌や手品、ヨガ、大正琴など多様なボランティアの訪問を受け利用者が交流を楽しんでいる。また、中学生の職業体験も受け入れている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	行事や会議等にご案内して来て頂いたり、地域のスーパーやレストランに出かけたりしている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	利用者の状況やサービスの取り組み状況を話し合い、意見や助言を頂きサービス向上に生かしている。	今年度は7回会議を開催している。地域包括支援センター職員、複数町内会の役員、利用者家族が参加して意見交換しているが、最近はテーマが防災と身体拘束に偏っている。議事録を家族に送付している。	ミニ勉強会のような形で、会議のテーマをより幅広く計画的に設定し、話し合いを行うことを期待したい。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	30年度の札幌市の管理者連絡会の代表を務めた。質問や確認事項があると、市と連絡を密にとっている。	管理者が市のグループホーム管理者連絡会の代表を務め、研修計画などの案件で市の担当者と相談し、密接な関係にある。法人として北海道の事業を活用した研修会を実施している。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	代表者、職員全員で社内外の研修会や委員会を通じ勉強し合い、身体拘束について具体的に理解し、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。「まどべの身体拘束ゼロマニュアル」を作成した。	身体拘束の禁止の対象となる具体的な行為を示したマニュアルを用意して年に2回程度、勉強会を行い、職員の理解につなげている。身体拘束廃止に係る委員会も年4回、行っている。玄関は夜間のみ施錠しており、玄関に通じるドアに鈴をつけ、外出があればわかるようにしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	代表者、全職員は高齢者虐待防止法を社内外で学び、毎日具体的に話し合う機会があり、防止に努めている。		

グループホーム まどべ

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修、勉強会で学ぶ機会がある。成年後見人制度を利用されている入居者様がいるなど支援している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	見学や質問の受け入れなどの他契約時の重要事項など十分な説明を行っている。改定時には文書でお知らせし質問ご意見をうかがっており理解納得を図っている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご利用syご家族とは日頃よりコミュニケーションをよくとり信頼関係を築くよう努めている。来訪時には意見要望を言ってくださり運営に反映している。ご意見箱も設置している。	家族の来訪は多く、平均して週1～2回の訪問がある。来訪時の家族の意見を日誌に記入し、職員間で共有している。意見をもとに居室の環境改善を行った例がある。毎月個人ごとの「まどべだより」を作成し、家族に送付している。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎日の朝夕の申し送り、勉強会などで職員は運営に関する気づきや提案を述べ、代表者管理者は聞く機会があり反映している。	毎月、勉強会とカンファレンスがあり、職員同士が活発に意見交換している。職員は代表者と年1回、面談し、管理者とも随時相談できる。職員は、勉強会、イベント、運営推進会議、防災などの委員を担当し、運営に参加している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は現場のフロアに出向きコミュニケーションをとり面談をしたり、各自の努力や向上心が反映するよう整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	働きながら資格取得に向けた外部研修や受験の支援をしている。ケアプラン作成や勉強会委員、レク委員、運営推進委員等年度ごとに担当し役割や技術を身に着けるトレーニングを進めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	札幌市の管理者会議や、厚別区の介護職員研修会、その他の芸部研修会に参加し、グループワークなどでは交流、情報共有などの機会がある。空き情報のお知らせ等のネットワークある。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	職員は情報を共有し初期においてご本人とコミュニケーションをよくとりそこで得た情報も共有して安心していただけるよう関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族とよくコミュニケーションをとりアセスメントを元に不安や思いに耳を傾け関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	初期段階での聞き取り観察から必要な支援を見極め安心していただける対応に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	できること得意なことを知る、嫌な事など日々の関わりから見極め、共に支え合う関係を築いている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族との絆を大切にし来訪時にはくつろいだ雰囲気を作り交流していただき共に支えていけるよう情報提供もしている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	親せきや友人の来訪もあり、また電話を掛けて声を聴くなど関係が途切れないように支援している。	2名の利用者に近所に住んでいた方や仕事仲間、和歌の生徒などが来訪している。利用者が年賀状を書く際は、内容確認の支援を行っている。個別の外出で、行きつけの床屋、生協、水族館、コンビニエンスストアなどに出かけ、馴染みの関係を継続している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員が仲立ちし利用者同士が会話・テレビ・家事などの時間に関わりあえるように支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約が終了してからもご家族の来訪がある。その後の様子を教えてくださいたり相談がったりして、支援に努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	思いや訴えを受け止め職員同士共有し、希望や意向の把握に努め本人本位に検討している。	8割程の方が言葉で思いを表現でき、その他も問いかけの反応などから把握している。独自の「私の情報シート」があるが、フェイスシートは前の施設のもの、作成後期間の空いたものを使用している。	事業所独自のフェイスシートを用意し、家族構成や生活歴、病歴などの情報の整備を期待したい。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人家族との会話やアセスメントシートにより生活歴や暮らし方の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	少しの「いつもと違う」様子があればその日の申し送りやカンファレンス、日誌等で情報共有し現状の把握に努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人家族との会話から思いを汲みとり医療関係者からの情報を踏まえて現状に即した介護計画を作成している。	介護計画を3か月ごとに更新している。カンファレンスをもとにセンター方式のEシートを作成して評価を行い、課題を抽出している。個人記録も介護計画を参照しながら、目標項目を意識した記録を行っている。記録方法の研修も実施している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子やケアプランの実践を通じて気づきや工夫を記録し職員は情報を共有し介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	マッサージ、理美容、新聞やヨーグルトをとるなどの希望に添う。また家族持参のおやつや飲料に対応したり、嗜好品の買い物に付き添うなど柔軟に対応している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	趣味活動の講師やボランティアの方が地域から来てくださったり、スーパー、コンビニ、ドラッグストアへの買い物などご本人の力を発揮し豊かに暮らせるよう支援している。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医の定期的な内科・歯科の往診、皮膚科の受診なども本人家族と相談し納得を得ながら適切な医療を受けられるよう支援している。	全員が協力医療機関による2週に1度の往診を受診している。その他のかかりつけ医の受診は家族対応だが、必要に応じて事業所で通院支援している。受診内容は、利用者を一覧表にして月ごとに表にした「受診記録」に記載し共有している。	

グループホーム まどべ

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護ステーションと連携し利用者の状況や気づきなどを報告相談している。助言指示をもらい適切な受診や看護につなげる支援をしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時のお見舞いや医師・病棟看護師・相談員との情報交換や早期退院に向けての話し合いができるよう良好な関係性を保っている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	事業所としてできることは見学时・入居時・随時説明している。終末期のあり方は本人家族の意向を尊重し早い段階や必要な段階に話し合い提携医・訪問と共にチームで支援している。	利用開始時に「重度化した場合の対応に係る指針」を家族に説明し同意の署名捺印を得ている。実際に重度化した場合はさらに看取りの同意書も得ている。2年間で4件の看取りを行い、経験を積んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	年2回定期的避難訓練に合わせてAED、応急救護訓練を全職員が受けており勉強会のテーマとして話し合ったり実践力を付けている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の災害避難訓練は地域・家族・町内消防団の方々の参加の元、厚別消防署の指導助言があり地域との連携体制を築いている。	年2回、消防署や地域の協力を得て夜間想定避難訓練を実施し、職員の救急救命訓練の受講も定期的に行っている。地震など火災以外の対応マニュアルを用意し、話し合いも行っている。必要な備蓄品の用意もできている。	

IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人格や誇り、プライバシーを尊重し一人一人に合った声掛けや丁寧なケアを心がけている。	定期的に外部講師による接遇マナー研修を行っている。気になる声かけや対応があれば、その都度管理者が注意を促して適切な対応をしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人が理解しやすい声掛けをし、日常生活の中で思いや希望を表出したり自己決定できるよう働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	起床就寝時間、散歩、入浴、など本人の希望やペースを大切に支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	季節に合った服装や本人らしいオシャレ、好みの髪形や化粧、カラーリングなど支援している。		

グループホーム まどべ

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	戸惑わないで食べられるよう食器、出し方、形態に工夫し、盛り付けの作業を共にして食べる楽しみを共有できるよう支援している。	恵方巻きや花見弁当を食べて季節感を感じたり、和食レストランに出かけておやつを楽しんでいる。白菜の漬物やニンニク味噌を作る利用者もいる。畑で収穫した野菜が食卓に上がることもある。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人一人の状態や力、習慣に合わせて食べやすい形態にしている。栄養バランス、量、水分量の確保に配慮している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアを行う。本人の力に応じ見守り声掛け介助を行い口腔内の清潔保持をしている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	チェック表を活用し排泄パターンや習慣を把握し失敗やパットの使用減に取り組みトイレ、ポータブルトイレでの排泄を支援している。	自立している利用者も多いが、全員の排泄を記録して個々に応じて適切な声かけをしながらトイレでの排泄を支援している。睡眠を重視して夜間のみベッド上で排泄用品を交換する方もいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘が及ぼす生活の質の低下を理解し乳酸菌、冷水の活用、運動、散歩などで活性化し排便リズムの把握、便秘予防に取り組んでいる。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	一人一人の希望やタイミングに寄り添い会話などの楽しみを持ちながら入浴し清潔保持できるよう支援している。	日曜日以外の午後の時間帯に、各利用者が週2回以上入浴している。日曜日は全員足浴をしている。好みの湯加減にしたり入浴剤を使用して楽しめるように工夫している。利用者は、歌をうたったり職員と会話をしながら入浴している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ベット、ソファなど生活習慣や希望に応じて休息していただき安眠につながるよう就寝前の過ごし方に配慮している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方薬の目的や作用、用法は医療の指示のもと情報、変化の報告など共有しており個別の薬箱に保管し支援している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	レクでの号令がけや味噌作りなど得意なことを生かす支援をしている。好物の買い物や好きな歌を歌うなど張り合いや気分転換できる支援をしている。		

グループホーム まどべ

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日常的に散歩、外気浴を実施している。花見、サクラランボ狩り、外食、ショッピングなどの機会があり、家族との外出も支援している。	年間を通して近隣を散歩したり公園に出かけている。平岡梅林公園で花見をしたり、動物園や農村レストランなど季節に応じて外出を楽しんでいる。畑の野菜を収穫したり、近隣に買い物に出かける利用者もいる。冬季も外出行事でショッピングツアーに出かけている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自己管理している方もいる。預り金から希望に添って買い物に行き職員が支払い時に支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	職員の仲立ちで(携帯)電話を掛けたりハガキと一緒に書いたり、力に応じた支援をしている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	窓から花木、野菜畑が見え陽が入り生活感あり居心地の良い空間となっている。季節感のあるひな人形や節句飾り、七夕、クリスマスツリー、鏡餅、神棚など馴染んだ習慣や雰囲気を出している。	季節の花が飾られている居間には、庭に面した大きな窓から明るい光が注いでいる。共用空間や階段の壁に、額に入れた風景写真や行事の写真が品よく飾られている。2階ホールにもテーブルと椅子を配置して、利用者がゆっくり寛げるように工夫している。家具類は地震対策を施して、利用者が安全に居心地よく過ごせるように配慮している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	他者の視線を気にせず過ごし、気の合う同士の交流がある居場所づくりの工夫をしている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みの家具や写真アルバムなど家族の思いや本人らしさが満たされて過ごし、家族来訪時には心地よく過ごして頂けるよう相談しながら工夫している。	広々とした居室には、大型のクローゼットや収納棚が備え付けられている。桐ダンスや鏡台などの馴染みの物を持ち込んだり、好きな縫いぐるみや自分で制作した雛人形を飾り、その人らしい落ち着いた室内になっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室ドアにはネームが、トイレには表示がある。靴箱からは自分の名前をみて出し入れできる。テレビ、新聞をみたい時に見ている。安全に自立した生活が送れるよう支援している。		

目標達成計画

事業所名 グループホーム まどべ

作成日：平成 31年 4月 6日

市町村受理日：平成 31年 4月 12日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	4	運営推進会議のテーマが昨年は「防災・身体拘束防止対策」等に偏ったため、幅広く設定する。	運営推進会議のテーマについて職員全体の勉強会などでも話し合い、今までより幅広いテーマを計画的に設定する。	運営推進会議のテーマの幅を広げ、例えば「認知症について」など「ミニ勉強会」の形式を取り入れて開催したい。	2019年4月～2019年10月
2	23	まどべ独自の「私の情報シート」は使用しているが、家族構成、生活歴の記載様式にはばらつきがある。	必要な項目を記載して情報を共有し、入居者個々への理解を深める。	必要な項目を記載できるよう情報シートを統一し、勉強会や申し送り時にも話し合い、追記していけるようわかりやすく整理していく。	2019年4月～2019年12月
3					
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入して下さい。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加して下さい。